

## 2017春・全国技術部会報告

開催日時&会場：2017年4月8日～9日 志賀高原横手山スキー場

参加者：16名

全国： 荻原技術教育局長、岡田技術部長兼事務局

全国技術部員： 五十嵐（北海道）、畠山（岩手）、森（栃木）、関根（埼玉）、横田（新潟）、  
出崎（東京）、福島（東京）、多田（岐阜）、池田（滋賀）、森田（京都）、  
明星（大阪）、桶谷（奈良）、辻本（和歌山）、和田（兵庫）

今シーズンのテーマだった、2015 教程解説 DVD No.10「ベーシックパラレルターンを再検証」を雪上で確認した後、新教程カリキュラム案について紹介するとともに検証を行った。

### 1. シーズンテーマ、雪上検証でのポイント

基本的に、去年と同じテーマということだったので、何か各地で問題が起きていることや、疑問などがあれば出してもらうという流れで行った。

各部員のレポート（別紙参照）からも、概ね良い印象でとらえられ伝達されてきた様子。

特段、取り上げるべき問題は出て来なかった。

基本姿勢の練習で、スネと背中との角度を合わせることを確認したが、実際 部員の滑りは胸が起き上がっている人がほとんどなので、注意が必要。

片足直滑降（交互）をすることによって、胸が起き上がる現象を確認することができる。

「ターンとターンの間」

ターンを切り替えるには斜滑降に入る必要がある。それはターンが終わらせることを意味する。

斜滑降の状態では重心を前に持っていく（ターンの後半に遅れた重心を戻す）。

斜滑降はスピードが増す。その中で重心が遅れないように前に重心を移動する必要がある。

去年と同様に、これができず重心が後ろのまま次のターンに入るケースが見受けられた。

新教程でも同じ動きが求められている。よく意識して練習してほしい。

足裏切り替えは、ターン後半の足場があるから足裏切り替えができることを理解してもらう必要がある。また、足裏だけの切り替えではなく、重心移動を伴った切り替えが大切ということを再認識してもらった。

### 2. 教程改訂のカリキュラム案を検証

2019年2月に50周年を迎える。このシーズンインの2018年秋の発刊を目指して教程改訂作業を行っている。2016年に机上で3回、2017年3月に雪上で一度、教程制作委員会を行ってきた。

これまでの討議内容を元に、荻原技術教育局長がカリキュラム案を作成。

別紙：スキー教程カリキュラム改定案(2017/04/09時点)

別紙：スキー教程カリキュラム改定案の特徴と理由 ～ 【荻原技術教育局長作成】

基本的な考え方は、「教程に関する会員・指導員向けアンケートの結果に基づき」

- ・ 現教程の基本的な考え方は良いという評価なので全面改訂はしない
- ・ プルークを使った導入の要望が強いため、これを盛り込む

この2点を説明。（詳細は、ホームページ掲載の教程制作委員会議事録をご参照ください）

今回の部会には、教程制作委員会メンバー9名中7名が参加しており、部員の疑問や質問に対してフォローや雪上でのデモンストレーションを依頼した。

夜のミーティングでは、雪上で行ったことを1つずつ振り返りながら、頭の中の整理を行った。

教程制作委員会としてどこまで求めているのか？ という質問について、教程制作委員会の中では、発展のパラレルターンのようなものを要求しなくてよいと整理されていることを説明。

ほとんどの人が、山回りの後に谷落としができず、ズレ落ちた後に山回りという流れになっている。  
今度の教程は、谷回りできちんとコントロールできるということを理解してもらう。

足裏切り替え、相変わらず軽視されてきてしまっている。  
外脚のとらえなど安全面からも大切なので、新しい教程の中では重要視していく。  
足裏切り替えは技術レベルの低い段階から精度の高さは求めないが練習してもらう。

真下横滑り左右連続は、回転技術のベースとなる技術として、技術レベルの低い段階から高い段階まで実践してもらうことを考えている。

洗練の平行ルターンの派生として、コブや吸収動作というものがあってよいという考え。  
コブや小回りを別立てで教程の中で紹介する予定だが、「教程に書かれていないから出来ない」ということではなく、色々なシュチュエーションで滑走し、もっと幅の広い応用力を身に付けていく必要があることを確認した。

### **3. シーズンテーマを決定**

今回、雪上検証してもらった内容に、部会で指摘があった部分を一部修正したものを来シーズンのテーマとして各地で実践してもらい、来年春の全国技術部会で集約することを確認。  
その内容を教程書へ反映していく。

### **4. 技術の目合わせを実施**

全国技術部会として今回も、部員各々の滑走に対して点数付けを行った。  
今回のシーズンテーマでもある「ベーシック平行ルターン」1種目を実施。自分が思っているよりも点数が出た人、出ない人 様々だが、それぞれ課題を持って今シーズン研鑽してもらいたい。

(報告：全国スキー協 技術部長 岡田章男)